



吸蜜中の成虫

モンキアゲハの初飛来

矢田 敦子

昨年9月末、庭のミカンの木にモンキアゲハがはじめて飛来し産卵をした。2令幼虫の時に採取して飼育したところ、10月9日に3令、10月13日に4令、10月20日に5令、11月1日に前蛹、11月4日に蛹になり、その後は戸外で越冬し、今年5月5日に羽化した(♂)。これで庭のミカンの木には、毎年産卵していくアゲハ、クロアゲハ、ナガサキアゲハにモンキアゲハが加わり、4種類の蝶が飛来したことになった。

モンキアゲハは林や里山の辺を飛ぶものと思っていただけに、今年も産卵してくれる事を大いに期待したが、9月末になっても幼虫は見つからない。やはり一度きりの偶然だったのだろうか。

(YADA ATSUKO 加古川市平岡町新在家2159-16)

白色化コオロギの発見

矢田 敦子

8月23日、庭の雑草の中に頭から羽まで全身乳白色のコオロギの成虫を見つけた。白色化した昆虫を見たのは初めてなので驚き、感動した。

このように突然変異で目に付きやすくなった生物は天敵に狙われやすいのだろうか、それとも逆に敬遠されて生き延びるのだろうかと考えさせられてしまった。

(YADA ATSUKO 加古川市平岡町新在家2159-16)

児童公園の砂場にハナダカバチが発生 山口 福男

2002年6月、神戸市西部公園事務所から蜂の処分について相談を受け、22日に現地調査したところ、ハナダカバチ *Bembix niponica* F.Smith であった。場所は、神戸市須磨区離宮前町の児童公園の約24平方メートルの小さな砂場であった。目まぐるしく地表を飛び交うハチは個体数が多いように見えたが、捕虫網ですくい取ってみると5匹(すべて雄)だけであった。事務所の職員には危険性のないことを報告しておいたが、蜂の仲間であることだけで住民の理解を得ることができず駆除処分されてしまった。

ハナダカバチの生態については、岩田久仁雄氏によって詳しく報告されているが、これによると本種は分布は広いが、どこにでもいる普通種でなく、巣を作るにはかなりの深さに堆積した砂地が必要とされている。岩田氏はこのような場所は開発により消滅しやすく、本種が都市近郊で生き残れるのはかなり難しいのではと危惧されていた。しかし、ハナダカバチは岩田氏が心配されたほどに繊細な種ではなく、大都会の住宅地であっても条件が整えば増殖できるしたたかさをもっている種のように思える。

(YAMAGUCHI FUKUO)

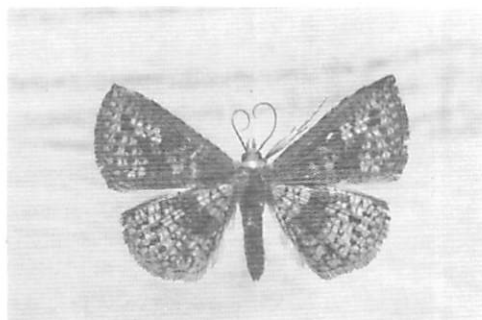
神戸市須磨区神ノ谷3丁目6-4)

芦屋市で記録した注目すべき蛾

西 隆広

古い記録を含むが、兵庫県芦屋市以内で記録した注目すべき蛾を報告する。報告で示した兵庫県での記録は本会の高島昭氏による。

クロモンウスチャヒメジャク *Anisodes absconditaria* 兵庫県では南淡町での記録がある。芦屋市での記録は次の1例である。



クロモンウスチャヒメジャク

データ：

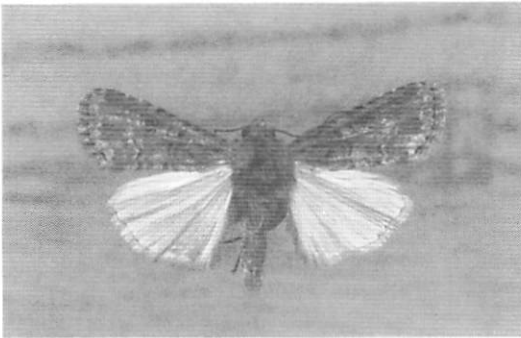
1♀ 11.vi.1989 高座滝 西 隆広 採集・保管
クロモンオエダシヤク *Semiothisa temeraria*
兵庫県では南淡町で数例ある。また高砂市からの記録がある。芦屋市での記録は次の2例である。

データ：

1♀ 10.viii.1985 高座滝 西 隆広 採集・保管
1♂ 5.v.1988 高座川 西 隆広 採集・保管
クシナスジキリヨトウ *Spodoptera cilium*
兵庫県では南淡町で1例ある。芦屋市での記録は次の1例である。なお、芦屋市での記録は南淡町での記録と同年で、およそ1ヶ月後にあたる。

データ：

1♂ 26.xi.1994 山芦屋町 西 隆広 採集・保管



クシナスジキリヨトウ

マイコトラガ *Maikona venusta*

本種については、高島氏より阪神地区での正式な報告がないとの指摘を受けたので以下のとおり芦屋市での全記録を報告する。2000年以降今年までの3年間、毎年同じ場所で計4例を記録している。住宅の門灯のそばで、静止位置までほぼ同じである。偶然であろうが興味深い。

データ：

1♀ 10.iv.1994 芦有ゲート 西 隆広 採集・保管
1♀ 8.iv.2000 山芦屋町 西 隆広 採集・保管
1♀ 20.iii.2001 山芦屋町 西 隆広 採集・保管
1♂ 1.iv.2001 山芦屋町 西 隆広 採集・保管
1♂ 23.iii.2002 山芦屋町 西 隆広 採集・保管

今回の報告に当たっては、本会の高島昭氏に兵庫県の記録についてご教授いただいた。またクシナスジキリヨトウについては、標本写真をe-mailで送り同定をいただいた。私は、「日本本土では採集されたことがない」とする日本産蛾類大図鑑の記述から断定できなかった。ここに改めて御礼申し上げます。

参考文献

井上寛他(1982) 日本産蛾類大図鑑 講談社

(NISHI TAKAHIRO 芦屋市川西町4-3)

庭の昆虫雑文(3)

森口 紀

毎年3月、啓蟄を迎える頃、今年はどうな蝶に出会えるのか、今年こそ庭を訪れる蝶を詳細に観察し記録に残そうと心に誓うのだが、いつも尻切れトンボ、三日坊主で、手帳に書き始めたメモもいつしか途絶えがち、そんなことを繰り返してきた。

今年も、蝶や虫たちの季節が終わろうとしているが、例年に漏れず、取り始めたメモは途中から白紙が目立ち、満足な記録が取れず仕舞いであった。

毎年同じことを繰り返しているが、記憶をたどってみると、別に珍しい種類ではないがアサギマダラ、アカタテハ、トラフシジミ、また、エノキでテングチョウの蛹が我が家では初めて観察された。

また、ここ数年、姿を見なかったジャコウアゲハが大発生したこと、ツマグロヒヨウモンが鉢植えのスミレで長期間にわたり発生を続けていること(現在も成虫から卵までの全ステージが観察される)などが今年の出来事である。

庭で毎年発生を繰り返していると考えられるチョウは、アゲハ、クロアゲハ、アオスジアゲハ、モンキアゲハ、ホシミスジ、テングチョウ、ツマグロヒヨウモン、ムラサキシジミなど、また毎年決まって目撃される蝶は、上記に加えて、ナガサキアゲハ、モンシロチョウ、キチョウ、ヒメアカタテハ、ゴマダラチョウ、ヤマトシジミ、ウラナミシジミ、ウラキンシジミ、イチモンジセセリなどが観察されている。

地球温暖化の影響と考えられる現象が、近年、蝶の分布の北上においても目立っているが、今年の9月始め、鳥取県でナガサキアゲハ(♂)、三重県四日市市内でかなり白化が進んだナガサキアゲハ(♀)を目撃したことなどがあり、来年はどんな出会いがあるか今から楽しみである。

(MORIGICHI TADASHI)

神戸市西区伊川谷町有瀬77-1)